



77 小林敬二郎 監督

勝利に向け貪欲に厳しく戦つていきます!

後期巻き返しの誓い



愛媛マンダリンパイレーツは2014年前期、残念ながら実力を発揮するには至りませんでした。そして迎えた後期、チームは一丸となつて巻き返します。今回は首脳陣に後期に対する決意と展望を伺いました。

投手陣整備に手応え! 期待は打撃の突破口!

1 前期は苦しい戦いでした。

小林が完投すれば試合が作れて勝つが、他の投手では継投になり終盤に競り負けれる。打者はチャンスこそ作るもの1本が出ない。その繰り返しでした。

戦力もさることながら、ピッチングもバッティングもメンタルだと思いますね。投手は打たれるのじゃないかと

「苦戦の原因は何ですか。」

恐々と手探りで投げ、四球を出し、ストライクを取りに行き打たれるという悪循環ですね。闘う気構えで投げていない。かわそうとする。

勝負ですから怖いのは当たり前です。向かつて行かないといけない。それは打者も投手も同じです。かわして、逃げていたのでは勝てないし成長ないです。これは口を

「闘う姿勢ですか。」

先発は小林を軸

酸っぱくして何度も言つきました。『グラウンドでは誰も助けてくれない。自分で頑張り、何とかしないと打開策はない。そうでないと道は拓けない。厳しい世界なのだ』

として、サンフレール、正田、河原、後は橋本直に高原、

ウイルハイト、抑えはバレン

ティン。コマは揃つて来たと思います。辻は何とか再生したいと思う。あとは打者がチャンスに打てるか、そこ

に尽きます。誰かがチャンスに1本打つと、後は繋がると思

ります。突破口ですね。それを切り拓くのは気持ちの強

い選手ですね。

「改めて後期の抱負を。」

競り勝つ、1点差のゲー

ムをものにしたい。温かく応援して下さるファンの皆さんに何とかいい形で勝ちに繋がるゲームを多く見せたい

と思います。突

いて、中継ぎで試合を作れば拾える試合は増えて来る

と思います。

NPB(オリックス2軍監督)とは違いも多いのでは。NPB2軍の場合はそんなに勝ち負けに拘らない、育成が主体です。でも、ここは勝たないとダメ。だから勝つことにもっと私も選手も貪欲にならないといかん。選手には私ら首脳陣の責任で勝つのだという意思、気持ちを強く植え付けねばならない。アイランドリーグも育成という目的があります。

ここでは勝つことによつて選手は成長するということによつてです。勝って、守備が上手くなる、ここ1本のヒットが打てる、そして力が付いて行

く。4打数1安打で決勝の打球を叩き出す、ここ1打という選手でより育つたいですね。そん

な選手を育てたいですね。そこで、後期は戦える陣容になつた。溝刺プレーの中で結果を出したい! 」



93 加藤博人 投手コーチ

く。4打数1安打で決勝の打球を叩き出す、ここ1打という選手でより育つたいですね。そん

な選手を育てたいですね。そこで、後期は戦える陣容になつた。溝刺プレーの中で結果を出したい! 」

敗戦から学び成長しよう! チャンスだ!

前期はもう1歩踏み越えて行くことができず、勝ちに中々結びつけることができませんでした。▼私が昨年まで在籍していた徳島IISも最後位から3年かけて勝てるチームに育てました。最初からこの姿ではありません。過

る中から学んで今の姿がある

のです。負けという結果から

何を学んでいるかです。それ

がこのチームから徐々に見え

始めています。戦力もある程

度整備されてきたので、後期

に心配していたことが現実

になりました。▼しかし、前

期途中からサンフレール、バ

レンティン、正田が入つてき

れました。先発が小林を軸にサンフ

レール、正田、河原、中継ぎが

ウイルハイトに高原、橋本直、

中村、抑えはバレンティンで

れます。投手陣は戦える準

備ができてきました。後期は

先発が6回を2点位に抑え

れます。投手陣は戦える準

備ができてきました。後期は

先発が6回を2点位に抑え